

国際情報専攻

いけ がみ きよ こ
池 上 清 子 教 授

専門分野：国連やNGOsを中心とした開発援助、リプロダクティブ・ヘルス/ライツと女性の健康、開発と人口問題

特別研究の研究領域

開発を核におきながら、関連団体や関連者を中心にマルチステークホルダーの分析、国際政治や国際人口移動などの外因の把握、さらに、ジェンダーのような分野横断的な見方など、を包括的研究方法を採用。開発途上国の現場で役立つノウハウ、国際的な高齢化・少子化への対応など、実際の事例研究を含む広範囲な開発問題を領域とする。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識を最も重視し、研究課題を決定する。研究課題（テーマ）が決定した後は、①先行研究成果の概観、②先行研究の内容検討、③研究方法の策定と資料収集、④具体的な論文作成に着手することになるが、指導教員より、都度、アドバイスが行われる。

特別研究の進め方

初年度

- ① 研究課題（テーマ）に関するオリエンテーション（4月）
- ② 先行研究のリストアップとその内容検討およびテーマ決定への準備（6月）
- ③ テーマおよび研究方法の決定（7, 8月）
- ④ 章の組み立ての検討、資料収集（含、図表作成）準備（2月）

かわ なか けい いち
川 中 敬 一 教 授

専門分野：軍事戦略思想（特に、孫子、毛沢東及びマハン）、当今中国の軍事戦略、米中関係と世界、中国の国防・治安法制度

特別研究の研究領域

- ※ 中国の各分野における危機的現象を伝統的思想と中国共産党の理論とを尺度として、現今中国を等身大に理解する。
- ※ 中国を基軸とした国際情勢の歴史的経緯から、各種危機的現象の本質を理解する。
- ※ 軍事的観点から、各分野の危機的現象の背景と意義を理解する。
- ※ 中国に関連する軍事・治安上の危機的現象を外部世界（特に、欧米）との関連で理解する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

中国共産党および中国国民党の政治的・文化的理念（特に、19世紀中葉以降の歴史的経緯）と、各種の危機的現象との関連を考察することを推奨する。この手法により、学生諸氏の思考と情緒を中国人のそれに疑似投影して、中国（人）の言説には現れない深層的衝動を理解する素地を築く。その上で各学生諸氏の関心事に対する考察を進めるよう指導する。

また、各種現象において、台湾および米国の中国の意志決定に対する作用を常に考察に加えるよう指導する。

特別研究の進め方

入学までに「2年間(実質的には1年半余)で何を明らかにしたいか」を確立することが前提となる。また、入学と同時の論文仮執筆開始が肝要である。具体的には、以下の要領で論文作成を遂行する。

- ①関心の所在報告、②『人民日報』通読、③中国を基軸とする近代史概要把握（推奨資料通読）、④途中報告（隔月1回を標準）、⑤②～④と同時に論文執筆、⑥中間報告（第1年次末）、⑦最終的修士論文作成・草稿、⑧修士論文完成

特別研究の研究領域

グローバル化が益々進展している現代において、日本企業（特に、ファミリー企業）を取り巻く環境はかつてないほど、多様化しており、経営戦略を構築する際にも、「一つの解」はなく、重層な「連立方程式」を解く必要があり、実際には「正解」がない世界になっている。このため、適切な経営戦略を構築するためには、いわば定跡化されているハーバード大のマイケル・ポーター教授に代表されるポジショニング・アプローチから、バーニー教授の資源アプローチに至る理論を理解するだけでなく、最近の理論（INSEADのチャン・キム教授+レネ・モボルニュ教授のブルー・オーシャン戦略等）まで概観し、具体的な日本企業（含、院生自身関心のある企業・団体）の経営戦略（含、国際経営）のあり方を研究して行く。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識を最も重視し、研究課題を決定する。研究課題（テーマ）が決定した後は、①先行研究成果の概観、②先行研究の内容検討、③研究方法の策定と資料収集、④具体的な論文作成に着手することになるが、指導教員より、都度、アドバイスが行われる。

特別研究の進め方

1年次

- ① 研究課題（テーマ）に関するオリエンテーション（4月）
- ② 先行研究のリストアップとその内容検討およびテーマ決定への準備（6月）
- ③ テーマおよび研究方法の決定（7、8月）
- ④ 資料収集（含、図表作成）終了（2月）

2年次

- ① 研究中間発表（4月）
- ② 補足的資料と論文の作成（6月）
- ③ 論文中間発表（7、8月）
- ④ 論文個別指導（10月以降）

特別研究の研究領域

マーケティング論をテーマに、広義には「グローバル・マーケティング」含む内容を扱う。日本のマーケティングはもちろんのこと、アメリカやヨーロッパの事例を扱う。最近では私がアメリカから紹介した「ボーン・グローバル企業のマーケティング」(marketing by born globals)が注目されている。これは小さな企業が設立から数年間で国外市場を探し、開拓しようとするものである。その要因の一つとして、地球サイズでインターネットの普及や異文化間の交流が可能になったことがあげられる。また、サービス・マーケティングも取り上げる。

特別研究の指導及び研究上のポイント

広義のマーケティングの領域からいくつかのテーマを絞り、最終的には院生と教員とでテーマを決定する。学問の中で社会科学は、「ひらめきや勘」だけでは成り立たないので、他の研究（先行研究）を参考にする必要がある。そこで、①研究テーマの先行研究の成果・内容を調べる、②その中で有意義な先行研究と方法を見つける、③独自の研究資料と方法論を見つけ出す、④論文の構成を考える、⑤論文作成をする、⑥見直し・推敲をする、ことが主な手順である。

特別研究の進め方

- 初年度
- ① 研究課題（テーマ）候補の設定（4～6月）
 - ② 先行研究の検討とテーマ決定（7～8月）
 - ③ 章立てと資料収集（9～2月）

特別研究の研究領域

アメリカ合衆国では、1929年の大恐慌以後、政府の行政機能が大幅に拡大された。行政機能の拡大は、官僚による政策決定への参加を余儀なくさせ、他方において官僚に対する民主的統制の必要性を増大させた。行政の多様化、複雑化に伴う行政国家化に十分に対処することが困難になった議会は、一面において立法権限を一部放棄し、それを行政部へ委任すると同時に、他面において委任・放棄した立法権限を監視し、行政部を監督・統制することが必要になった。

連邦議会と大統領との法的関係を踏まえて、政治と行政との関係を考察してみたい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

政治や行政に関する問題意識を自ら持ち、それを実証的に解明しようとする研究意欲を育てたい。国家という共同体の中で、政治や行政は如何にあるべきか、また個人や社会と国家との関係は如何にあるべきかなど、テーマは尽きない。各自が決定したテーマに基づき、基礎的な知識を充実させ、問題解決のための洞察力を養う知恵の会得を図ることで、現実と理想との融合を考える姿勢を養ってもらいたい。

特別研究の進め方

1年次前半においては、本人が希望する研究テーマに基づいた基礎的研究に重点を置き、後半においては、研究計画に基づき、専門的知識を養うための資料収集を行う。2年次においては、修士論文作成に向けての研究発表を適宜行い、院生相互の議論や担当教員による適切なるアドバイスを通じて修士論文の完成を図る。

特別研究の研究領域

研究領域は、広義には「日本とアジア地域関係史」であり、狭義には「日中関係史」である。研究テーマの例としては、以下のようなものが考えられる。

- ・「帝国日本とアジア植民地」
- ・「日本の対中国政策」
- ・「アジア・中国における日本人の活動史」
- ・「日本人のアジア観」
- ・「日中戦争史論」
- ・「日中文化交流史」
- ・「中国の対日戦略論」
- ・「日本企業の中国進出史」
- ・「中国の反日運動史」

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生それぞれの問題意識と主体的な研究姿勢を尊重したところの研究指導を行うが、歴史的現実を十分に理論実証的に分析することのできる社会科学的能力を養成することに特に留意する。すなわち、現代アジアが提起する諸問題に対して冷静に対応し、それらを歴史的文脈において理論実証的に考察することのできるような総合戦略的な能力を育成・強化することを目指す。

特別研究の進め方

院生それぞれに作成してもらった研究計画に即して、以下のようなプロセスで研究指導を行う。

- ① 研究テーマの選定，研究計画の作成。
- ② 研究テーマについてのデータベース（参考文献目録）の作成。
- ③ 先行研究の批判的検討をし，研究テーマを具体的に決定。
- ④ 資料の収集と分析。
- ⑤ 論文の構成案を作成し，中間報告。
- ⑥ 論文の草稿を作成し，中間報告。
- ⑦ 修士論文の完成。

特別研究の研究領域

本特別研究では、アジア新興諸国の経済発展問題を主な研究領域とする。

世界経済のグローバル化が進むなか、アジア地域ことに東アジアでは、「生産輸出拠点としてのアジア」と「マーケットとしてのアジア」が重なることに留意しつつ、新しい国際分業の出現、産業集積効果そして企業生産活動のグローバル化といった要因に注目しながら、理論的実証的アプローチを通して、アジア新興諸国の経済発展問題の解明を目指したい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識と主体的な研究姿勢を尊重し、研究課題を決定する。研究計画を作成し、それに即して研究指導を行うが、国際経済学と開発経済学の分析視点に立って、アジア新興諸国の現実を十分に理論的実証的に分析することのできる研究能力の育成を目指す。

特別研究の進め方

主に以下のようなプロセスで研究指導を行う。

- ① 研究テーマの選定
- ② 研究計画の作成
- ③ 研究テーマ関連の参考文献目録の作成
- ④ 先行研究成果の概観と先行研究の内容検討
- ⑤ 研究方法の策定と資料収集
- ⑥ 研究内容を具体化し、論文作成に着手
- ⑦ 論文の構成案を作成し、中間報告
- ⑧ 論文の草稿を作成し、中間報告
- ⑨ 修士論文の完稿

特別研究の研究領域

経営全般，特に戦略，ファイナンス，アカウンティングに関するテーマを研究領域とする。研究テーマの例は，以下の通りである。

「企業経営における内部統制のあり方と経営者の役割」，「のれんと企業価値」，「日本における携帯電話コンテンツビジネス市場についての考察」，「衰退業界における M&A の有効性に関する一考察～建設業界から見た M&A の実態について～」，「CSR 活動と企業価値の実証研究」，「企業の株主構成と企業価値」，「M&A 戦略と企業価値に関する研究（グローバル製薬業界について）」，「事業売却から見た M&A と企業価値」，「ソーシャルゲーム市場における競争戦略」，「IR と企業価値」，「組織目標が組織行動に与える影響に関する考察」

特別研究の指導及び研究上のポイント

経営を科学的アプローチにより考察する立場から，仮説検証型の実証研究で経営に関する新たな知見や発見を見出す，修士の学位にふさわしい学術論文の完成を目的とする。そのために，下記の「特別研究の進め方」に従い，ディスカッション，メールによるコミュニケーション，草稿の提出と指導教員による推敲，が行われる。

特別研究の進め方

1 年次

- ① 研究課題（テーマ）に関するオリエンテーション（4 月）
- ② 先行研究のサーベイ（6 月）
- ③ テーマおよび論文構成の決定（7，8 月）
- ④ 研究背景，研究目的，及び仮説の構築，までの執筆（2 月）

2 年次

- ⑤ 研究中間発表（4 月）
- ⑥ 仮説の検証（6 月）
- ⑦ 論文中間発表（7，8 月）
- ⑧ 仮説の検証，検証結果の考察，及び研究の意義と今後の課題，までの執筆（11 月）